

# 学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムによる 若手のための将来イメージ創造講座

「一ずばり先輩に訊きます なぜエンジニア・研究者になったのですか？」

Helping reconstruction of young members' images for future  
Discussion with the seniors: "Why have you become an engineer or a researcher?"

磯部大吾郎<sup>1)</sup>

Daigoro Isobe

1) 博(工) 筑波大学 教授 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1, E-mail: isobe@kz.tsukuba.ac.jp)

This special program tries to help young members to reconstruct their images for future by asking frank questions to senior researchers and engineers. The questions include such ones as "Why have you become an engineer or a researcher?", "What motivation actually made you proceed to doctor program?", and so on. Young members such as graduate and undergraduate students, and those who still think he/she is young, are all welcome to participate.

**Key Words :** Image for Future, Motivation, Engineer, Researcher

## 1. はじめに

人が進路の岐路に立ち、どう進むか迷った時、他人のちょっとした助言が助けになることがある。この講座は、著者が理事会で提案させていただいた学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムの一環として企画したもので、学会で活躍される諸先輩方に経験談を率直にお聞きすることで、若手の研究者、学生たちが進路を考える際のヒントにしてもらおう、というものである。昨年の講演会では、会長・副会長の方々をパネリストとして迎えた。今年の講演会では、過去に本学会会長を経験された方々に人生を語っていただく。ぜひ、進路選択の参考にさせていただきたいと思う。

## 2. 学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラム

最近、特に博士後期課程に在籍する日本人学生数が減少しており、全国の大学で問題になってきている。分野によっては、学生数の減少がその後の当該分野の死活問題となり得る。これは、広く見れば技術立国日本の将来を危うくする忌々しき問題であるが、個々の大学で博士後期課程学生数の減少を食い止めることには限界がある。学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムとは、学会が主導して博士号取得を目指す学生を増進させ、バックアップするプログラム[1]であり、その対象者は、博士後期課程に在籍する学生、および博士後期課程に進むべきかどうか悩んでいる博士前期課程(修士課程)の学生である。具体的には、学生サマーキャンプや先輩研究者のぞっくばらんな話を聞く本企画のような講座の開催により、学生や若手研究者の活動と連携を活性化しようというものである。企業会員が多い日本計算工学会の特

長を生かし、積極的に企業の方々にも参加していただき、学生との交流を深めてもらえると、効果は倍増するものと考えられる。このような学会活動を通じて、博士号取得を目指す学生の数が増えることを期待している。

## 3. 本講座の内容

本講座は、前節に記した増進プログラムの一環として、学会会期の3日目の昼休みに開催される。学生であれば参加が無料で配布される予定なので、気軽に参加されたい。企画主旨の説明の後、以下のパネリストとの懇談と質疑が行われる。

パネリスト：元会長、竹内 則雄氏(法政大)

前会長、大富 浩一氏((株)東芝)

司会進行役：松井 和己氏(横浜国大)

浅井 光輝氏(九州大)

冒頭にまず、なぜエンジニア・研究者になったのか、なぜ博士号を取ったのかなど、各パネリストの原点について話していただき、その後会場からの質疑を受け付ける。学生の皆さんにとっては滅多にない貴重な機会なので、ぜひ様々な質問をパネリストにぶつけてもらいたい。

## 4. おわりに

本講座が、進路に悩む学生や若手研究者の一助になれば幸いである。なお、本年9月には、学生対象のサマーキャンプも企画されている(学会ウェブページ・メーリングリストなどで広報、5月中旬に公募開始予定)ので、ぜひそちらへの参加も検討されたい。

## 参考文献

[1] 磯部大吾郎：(巻頭言)若手にとって魅力的な学会とは、計算工学, Vol. 17, No. 4, p.1, 2012.